

平成 25 年度小中一貫・連携教育の取組状況について

1. 各中学校区の取組状況について

交流種別	STEP 1	STEP 2	STEP 3
教職員交流	<ul style="list-style-type: none"> ■小中管理職・教職員による定期的な意見交換・情報交換会 ■授業研究会（授業参観等） ■小中合同研修会 ■中学校教員による小学校への乗り入れ授業 ■小中学校の教員による合同授業（TT） <p style="text-align: center;">↑</p> <p style="text-align: center;">62 中学校区で実施 100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ガイドの作成等による9年間を通じた生活習慣・学習習慣の育成（学習規律の統一も含む） ■小学校高学年からのルールづくり（中学校区での「やくそくごと」の作成等） <p style="text-align: center;">↑</p> <p style="text-align: center;">24 中学校区で実施 38.7%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■9年間を通じた教育課程の編成・実施（対人スキルアッププログラム等） ■小中学校相互の乗り入れ授業 ■小学校における一部教科等の専科指導 <p style="text-align: center;">↑</p> <p style="text-align: center;">24 中学校区で実施 38.7%</p>
児童生徒交流	<ul style="list-style-type: none"> ■小学生による中学校授業体験 ■小学生による中学校部活動体験 ■小学生による中学校学校行事等への参加 <p style="text-align: center;">↑</p> <p style="text-align: center;">44 中学校区で実施 71.0%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■小中学生による合同授業 ■小中学生による合同行事 ■中学生による夏の教室ボランティア ■小学生の合同授業・行事（小小連携） <p style="text-align: center;">↑</p> <p style="text-align: center;">41 中学校区で実施 66.1%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■小中学生協働による取組の実施（児童会・生徒会の交流・連携等） <p style="text-align: center;">↑</p> <p style="text-align: center;">7 中学校区で実施 11.3%</p>
保護者・地域交流	<ul style="list-style-type: none"> ■学校だよりや学校ホームページによる保護者・地域への啓発 ■保護者との活動・合同行事 ■地域との活動・合同行事 ■地域行事への小中合同参加 <p style="text-align: center;">↑</p> <p style="text-align: center;">62 中学校区で実施 100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■小中一貫・連携教育だよりの発行 ■手引きの作成等による9年間を通じた家庭学習習慣の育成 ■小中合同授業参観 <p style="text-align: center;">↑</p> <p style="text-align: center;">17 中学校区で実施 27.4%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■小中協働の学校支援地域本部事業の実施 <p style="text-align: center;">↑</p> <p style="text-align: center;">6 中学校区で実施 9.7%</p>
その他	<p style="text-align: center;"><取組の方向性></p> <p>小中一貫・連携教育を継続的に進めるために、各学校での教育活動を小中一貫・連携教育の視点で見直し、既存の機会を活用しながら、児童生徒や地域の課題・実情等に応じて、STEP 1～3と徐々に新たな取組にも挑戦し、段階的に小中一貫・連携教育の充実を図る。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ■スクールカウンセラーを通じた小中連携の強化 ■スクールソーシャルワーカーとの小中合同ケース会議の実施 <p style="text-align: center;">↑</p> <p style="text-align: center;">31 中学校区で実施 50.0%</p>

※矢印内の実施中学校区数・%は、枠内の取組のいずれかを実施している中学校区数と全 62 中学校区に占める割合

2. 取組の成果について

教職員交流

<学習指導上の課題>

- *基礎学力の未定着（読み書き・計算等）
- *授業規律の未定着

<取組内容>

- *小中相互の授業参観
- *中学校区での全国学力・学習調査やC R Tの分析による学習課題の明確化
- *中学校区での学習のきまりの作成
- *9年間を通じた継続指導（音読、計算の反復等）
- *中学校入学前の春休みの課題・確認テスト など

<主な成果>

- *授業参観を通じて、相互の指導方法への理解が深まり、互いのよさを取り入れながらそれぞれの授業改善に生かされた。
- *授業規律を統一することで、小中学校の指導の連続性を図ることができた。
- *春休みの課題により中学校の学習への基礎固めを図るとともに、その確認テスト結果を小中学校で共有し、学力の定着度を把握することで、教科指導の参考になった。

<生徒指導上の課題>

- *中1ギャップの防止・解消
- *特別な支援が必要な児童生徒への対応
- *良好な人間関係を築けない児童生徒が多い

<取組内容>

- *児童生徒の情報交換会
- *中学校区共通のルールづくり
- *中学校教員による小学生（高学年）への中学校校則等の説明
- *スクールカウンセラーを通じた小中連携の強化
- *スクールソーシャルワーカーとの小中合同ケース会議 など

<主な成果>

- *児童生徒の状況の共通理解を図ることができ、それぞれの指導方法の改善に生かされた。
- *不登校傾向のある児童生徒の情報交換を、小中学校で密に図ることで、中1不登校生徒数の減少につながった。
- *入学前に中学校生活の状況やきまりごとを児童に具体的に伝えることで、中1ギャップの防止につながる効果が得られた。
- *スクールカウンセラーを通じて、特別な支援が必要な児童生徒の情報共有や対応について共通理解が図られた。
- *合同ケース会議など小中合同の生徒指導により、きめ細やかな対応が図られた。

児童生徒交流

<課題>

- *児童の中学校進学に対する不安の払拭
- *児童生徒の自尊感情・自己肯定感が低い

<取組内容>

- *小学生による中学校授業・部活動体験
- *中学生による小学生への指導（小学校に出向いての中学校生活の説明、夏の教室ボランティア、陸上部・合唱部生徒による指導など）
- *児童会・生徒会が中心となったスローガン作成
- *小学校合同自然教室（小小連携） など

<主な成果>

- *中学校の授業等を体験することで、児童の学習意欲の向上が図られ、中学校進学への期待が高まった。
- *小中学生の交流活動を通して、児童の中学生への憧れの気持ちが高まるとともに、中学生の自尊感情が高まった。
- *小小連携の取組により、中学校入学前から児童の仲間意識が向上し、中学校進学への不安が軽減できた。

保護者・地域交流

<課題>

- *家庭学習習慣の未定着
- *基本的な生活習慣の未定着
- *小中一貫・連携教育の保護者・地域の理解促進

<取組内容>

- *小中9年間を通じた家庭学習の手引きの作成
- *中学校区でのノーテレビ・ノーゲームチャレンジ週間の実施
- *中学校の自学ノートの小学校6年生からの導入
- *保護者・地域の合同清掃活動
- *小中一貫・連携教育だよりの発行 など

<主な成果>

- *保護者と児童生徒が家庭での時間の過ごし方を考えるようになり、家庭学習の時間が増え、家庭学習習慣が改善されてきた。
- *複数中学校に進学する小学校をもつ中学校区では、中学校間の連携を図り、複数中学校区の小中学校が共通の家庭学習啓発プリントを配布することで、9年間を通じた指導につなげた。
- *合同活動や情報発信等により、保護者や地域への啓発を図ることで、協力体制が構築されつつある。